所属成員の集団アイデンティティ知覚が集団の好ましさに及ぼす影響

○縄田健悟¹・山口裕幸²

(¹九州大学大学院人間環境学府・日本学術振興会特別研究員・²九州大学大学院人間環境学研究院)

キーワード: 集団間認知, 外集団拒否, 集団アイデンティティ知覚

The Effect of Perceived Group Identity on Group Likability

Kengo NAWATA¹ and Hiroyuki YAMAGUCHI²

(¹Graduate School of Human-Environment Studies, Kyushu University; Research Fellow of the JSPS

² Faculty of Human-Environment Studies, Kyushu University)

Key words: Intergroup cognition, Outgroup rejection, Perceived group identity

目 的

本研究の目的は、集団間認知において、その所属成員が持っている集団アイデンティティ（以下、集団 ID）の高さの知覚と、その集団の好ましさの関係、および排他性知覚の媒介効果の検討を行うことである。

集団 ID の高い人は、内集団ひいきを行いやすいことがこれまでの研究で指摘されてきた。人は素朴理論として、この集団 ID と内集団ひいきの関係を知覚しているがために、自らが他集団から見て「外集団成員」となったときには、集団 ID の高い集団から内集団ひいきされる結果、受け入れてもらえないと知覚するのではないかと。このことは、その集団に対する好ましさを低めてしまうだろう。そこで、本研究では、所属成員の集団 ID の強い外集団は、自らを受け入れてくれない（排他性が高い）集団だとみなされるために、好ましさが低下するという仮説を検討する。

仮説 1 所属成員の集団 ID 知覚と好ましさには負の関連がみられるだろう。

仮説 2 仮説 1 の関係は、排他性知覚によって、媒介されているだろう。

方 法

調査対象者 「心理学」の入門講義を受講していた福岡県内の女子専門学生 1 年生 38 名。

社会集団 国家集団として「アメリカ人、フランス人、イギリス人、中国人、韓国人、オーストラリア人、インド人、ロシア人、イスラエル人、サウジアラビア人、エジプト人、南アフリカ人」、在日異民族集団として「在日韓国・朝鮮人、アイヌ民族、日系ブラジル人」、宗教集団として「キリスト教徒、イスラム教徒、ヒンドゥー教徒、ユダヤ教徒」、地域集団として、「東京人、大阪人、北海道人、東北人、沖縄人」、大学集団として、「東京大学生、早稲田大学生、九州大学生、佐賀大学生、福岡大学生、久留米大学生」の 30 の社会集団を取り上げた。

測定項目 上で挙げた 30 の社会集団に対してそれぞれ評定してもらった。**所属成員の集団 ID 知覚** 「次の社会集団の人々は、自分が〇〇人、〇〇教徒、〇〇大学生 etc...だと、,,」という文に続けて、30 の社会集団が記載してあり、「全く意識していないと思う (1)」～「強く意識していると思う (5)」の 5 件法で回答してもらった。**排他性知覚** 「次の社会集団の人々は、あなたを友人や仲間として、,,」という文に続けて、「受け入れてくれそうもない (1)」～「受け入れてくれそうだ (5)」の 5 件法で回答してもらった(逆転)。**好ましさ** 「あなたは、次の社会集団の人々を、,,」という文に続けて、「好きではない (1)」～「好きだ (5)」の 5 件法で回答してもらった。なお、分析に際しては、各変数を平均 0、標準偏差 1 に標準化した上で分析を行った。

結 果 と 考 察

級内相関 まず各変数の級内相関係数を算出したところ、全ての変数が有意であった(所属成員の集団 ID 知覚 $ICC(1)=.23, p<.001$; 排他性知覚 $ICC(1)=.22, p<.001$; 好ましさ $ICC(1)=.24, p<.001$)。以上より、どの変数でも各個人の反応に類似性が見られるため、マルチレベル分析を行った。

仮説の検証：マルチレベル媒介分析

Step1. X→Y の検討 まず、成員の集団 ID が強い集団は好ましさが低いという仮説 1 を検討する。

【Level1】(好ましさ)_{ij} = $\beta_{0j} + \beta_{1j}(\text{所属成員の集団 ID 知覚}) - (\text{所属成員の集団 ID 知覚})_{ij} + e_{ij}$

【Level2】 $\beta_{0j} = \gamma_{00} + \gamma_{01}(\text{所属成員の集団 ID 知覚})_{ij} + u_{0j}$, $\beta_{1j} = \gamma_{10} + u_{1j}$

分析の結果、成員の集団 ID が強いと見なされる集団ほど、好ましさが低かった($\gamma_{10} = -.21, p<.001$)。これより、仮説 1 は支持された。

Step2. X→M の検討 次に、成員の集団 ID の強さと排他性の関係を検討する。

【Level1】(排他性知覚)_{ij} = $\beta_{0j} + \beta_{1j}(\text{所属成員の集団 ID 知覚}) - (\text{所属成員の集団 ID 知覚})_{ij} + e_{ij}$

【Level2】 $\beta_{0j} = \gamma_{00} + \gamma_{01}(\text{排他性知覚})_{ij} + u_{0j}$, $\beta_{1j} = \gamma_{10} + u_{1j}$

その結果、成員の集団 ID が高いと知覚される集団ほど、排他性知覚が高かった($\gamma_{10} = .29, p<.001$)。

Step3. X & M→Y の検討 最後に、成員の集団 ID 知覚と排他性知覚を独立変数とし、好ましさへの影響を検討する。

【Level1】(好ましさ)_{ij} = $\beta_{0j} + \beta_{1j}(\text{所属成員の集団 ID 知覚}) - (\text{所属成員の集団 ID 知覚})_{ij} + \beta_{2j}(\text{排他性知覚}) - (\text{排他性知覚})_{ij} + e_{ij}$

【Level2】 $\beta_{0j} = \gamma_{00} + \gamma_{01}(\text{所属成員の集団 ID 知覚})_{ij} + \gamma_{02}(\text{排他性知覚})_{ij} + u_{0j}$, $\beta_{1j} = \gamma_{10} + u_{1j}$, $\beta_{2j} = \gamma_{20} + u_{2j}$

分析の結果、排他性が高いと見なされる集団ほど、好ましさが低かった($\gamma_{20} = -.63, p<.001$)。それに対して、Step1 で有意だった所属成員の集団 ID 知覚の影響は、有意ではなくなった($\gamma_{10} = -.02, n.s.$)。

以上より、媒介効果が確認され、仮説 2 も支持された(図 1)。所属成員の集団 ID が高いとみなされた集団ほど、自らを受け入れてくれない集団だとみなされる結果、その集団に対する好ましさが低下するという影響過程の存在が示された。

図 1. 排他性知覚の媒介効果

(Kengo NAWATA, Hiroyuki YAMAGUCHI)